

財団法人美術文化振興協会 平成 25 年度 事業計画

平成 25 年度の事業計画については下記の通りです。予算は別紙予算書をご参照ください。

記

I : 「美術文化に関する国際交流」事業

[1] 《ジャパニーズ・アート・プログラム (Japanese Art Program)》

ライデン大学との共同事業である「ジャパニーズ・アート・プログラム」に関し、平成 24 年度の実施も含めこれまで 6 回の講座を行いました。平成 25 年度以降の実施に関して、ライデン大学の状況なども踏まえ協議していきます。

順調に実施できる場合は、下記を計画（案）しています。

講座：木版画（案） 派遣講師：三井田盛一郎氏（案）

[2] 《ジャパニーズ・アート・セミナー (Japanese Art Program)》

尚、国際交流基金の知的交流会議助成プログラムへの申請（結果は 4 月以降）を行っており、申請が通過した場合は、学外にも公開する「ジャパニーズ・アート・セミナー」の実施を併せて予定します。（詳細別紙参照）

II : 公益法人改革に伴う法人変更

平成 25 年 11 月までに新公益法人制度に準じた組織改編及び移行申請が必要です。それに伴い、法人変更に関する手続きの準備及び申請を進めていきます。「公益財団法人」に移行する《公益認定》をめざし、公益性に集中した活動を中心に、事業の展開を検討していきます。これまでの実績からは、派遣事業「ジャパニーズ・アート・プログラム」の継続や、新企画として調査団派遣を実施した東南アジア諸国との工芸分野での技術協力等の展開の可能性についても討議します。

III : 財源確保のための活動

寄付の呼びかけのほか、事業に対する助成申請等を計画し、実施していきます。

以上

《1. ジャパニーズ・アート・プログラム (Japanese Art Program)》

1. 目的

歴史あるライデン大学に日本の美術家を派遣し、日本美術の理解を促進するために、歴史・理論・実践面から包括的にカバーした講義および実習を行う、国際交流事業とします。

※過去6回にわたり実施した、このプログラムを通じて、両国文化の特質の相違点を理解する機会とし、和紙、筆墨、陶芸などの素材と表現を含め、日本文化への興味関心を深めるなどの成果をあげました。

- 第1回「木版画」 黒崎 彰 (版画)
- 第2回「書」 小川 東洲 (書)
- 第3回「墨絵」 北條 正庸 (日本画)
- 第4回「陶芸」 藤原 和 (陶芸)
- 第5回「書」 小川 東洲 (書)
- 第6回「日本画」 齋藤 典彦 (日本画)

ライデン(Leiden)は、オランダ南ホラント州でアムステルダムの南西36kmに位置し、レンブラント(画家)の生誕地であり、またシーボルト・コレクションを所蔵する国立民族学博物館があります。ライデン大学は、1575年に設立されたオランダ国内最古の国立大学です。ライデン大学には、シーボルトの功績により、1855年に欧州最古の日本学研究科が創設されました。

2. 時期

平成25年(2013年)9月～11月 (案)

3. 派遣先

ライデン大学 (滞在型美術家、客員教授として)

4. 開設

「木版画」(案) 派遣美術家(講師) : 三井田盛一郎 (木版画)

5. 内容

ライデン大学での講義および実習 (学生数30名程 15名、15名の2班)
「歴史に関する講義」「理論や美学的側面の講義」「技術面の実技演習」
派遣美術家は、ライデン大学の教授陣と協働して講義および実習を行います。

6. 派遣アーティストの資格

滞在期間中、ライデン大学は派遣美術家をアーティスト・イン・レジデンスのポジションで日本美術学科の客員教授に任命します。コース履修後、受講学生には、単位とともに、特別に認められた修了証書が授与されます。

7. 作品展示

コース終了後、学生作品は大学の建物内に展示されます。
派遣美術家の作品は、滞在期間中にライデン大学の美術館かギャラリーに展示されます。

《2. ジャパニーズ・アート・セミナー (Japanese Art Seminar)》

1. 事業内容

(1) 目的、意義、背景

「財団法人美術文化振興協会」(昭和56年、1981年に設立)は、広く美術家の交流を促進し、日本文化の伝統を基盤とした創作活動を奨励するとともに、その日本文化を通じて諸外国との美術の交流を図り、美術文化の向上と発展に寄与することを目的として活動している。

その主旨から美術文化に関する国際交流の一環として、ライデン大学 (Universiteit Leiden オランダ) との共同事業「ジャパニーズ・アート・プログラム (Japanese Art Program)」を、平成17年(2005年)より6回実施した。対象はライデン大学日本美術学科の学生で実技も含めて行うことで大きな成果をあげている。このプログラムを継続すると同時に、2012年の第6回からは国際交流基金の知的交流会議助成プログラムの助成を得て日本美術学科の学生以外のさらに広い層への日本文化の理解を目的に「ジャパニーズ・アート・セミナー」を開催し、より広く日本の美術を通じた日本文化の紹介を行った。日本からは齋藤典彦(東京芸術大学教授 日本画)を講演者として派遣し、講演を実施した。参加者は予定の60名を上回る77名で、ライデン大学の学生・関係者のほか、日本文化に関心を寄せる人が学外から広く参加され、好評を得、日本文化の理解促進に貢献することができた。この成果を受け、「ジャパニーズ・アート・セミナー」を継続し、日本文化の本質への理解を促進していく。今回は三井田盛一郎(東京芸術大学 木版画)を講演者として派遣し、「木版画」の講座を行い、モノトーンでの深みと和紙による表現に特色を置く。セミナーは学外にも公開し60名規模で実施を予定している。

(2) 期待される成果

従来の日本美術の紹介はスライドなどを用いて行うのみであるのに対して、講演で触れた内容がわかる実物資料を同時に示すことで、聴衆により身近にそしてより深い日本美術の理解が期待される。ライデンにはシーボルト・コレクションを有する国立民族学博物館もあるが、ガラスケース越しでの少数の展示作品では日本画の本当の理解は困難であり、画材がどのような手法でその表現に結びつくかまでを伝えられれば、日本文化の愛好者がさらに増加することが期待できる。

木版画は浮世絵を通して海外でも有名であり、ファンも多い。ライデンの民族学博物館のシーボルトコレクションや、アムステルダムゴッホ美術館などで、実際に目にすることもできる。また、レンブラントが雁皮紙などを用いて銅版画を作成したことも有名である。

木版画にはモノトーンでグラデーションを用いて大変奥深い表現が可能である。また、用いる和紙の種類を変えることでもその表現が大きく変化する。馬連による刷る技術も含めて、これらの違いは実際に目の前でデモンストレーションされないと理解しにくい点がある。

このような表現の新しい可能性は日本文化の愛好者を増やすだけでなく、和紙を入手して作品制作を行うアーティストをも生むことが期待される。

2. 実施方法

(1) テーマへの取り組み方法、講演内容

ライデン大学において「ジャパニーズ・アート・セミナー」を財団法人美術文化振興協会とライデン大学とで共催する。日本からは三井田盛一郎(東京芸術大学教授 木版画)を講演者として派遣する。セミナーは学外にも公開し60名規模で実施を予定している。

なお、三井田盛一郎はセミナー前後に、木版画実技を含めた講義を同大学日本美術学科の学生に対して行う。セミナーには実技で用いる材料や実際に制作した作品も展示し、セミナー参加者にもより深く木版画の理解ができるように配慮する。この点に本セミナーの特徴があるので、大人数のセミナーとはしない。

(2) 主要参加予定者

セミナーの参加者はライデン大学日本美術学科の学生達を中心となるが、ライデンには日本美術を身近に鑑賞できる国立民族学博物館があり、またアムステルダムのゴッホ美術館でのゴッホの浮世絵からの影響を示す展示があるので、一般の市民の中にも日本美術に対する関心が高いので、これらの市民へも積極的な参加を呼びかける。

(3) 事業の開催形式

財団法人美術文化振興協会とライデン大学とで共催、なお、セミナーを挟んで《ジャパニーズ・アート・プログラム (Japanese Art Program)》をライデン大学日本美術学科の学生に対して実施する。

(4) 事業のスケジュール

2013年2月 ライデン大学と派遣者:三井田盛一郎とでセミナーとプログラムの詳細を詰める。

2013年4月上旬 国際交流基金よりの交付決定通知後、直ちに実施の準備、広報

2013年9月から11月の期間中 ジャパニーズ・アート・セミナー (1回を予定)

2013年9月から11月の期間中 ジャパニーズ・アート・プログラム (2週間程度を予定)

2013年12月 セミナーおよびプログラムの評価を実施

3. 申請団体、参加予定者、協力団体

「財団法人美術文化振興協会」(昭和56年、1981年に設立)は、広く美術家の交流を促進し、日本文化の伝統を基盤とした創作活動を奨励するとともに、その日本文化を通じて諸外国との美術の交流を図り、美術文化の向上と発展に寄与することを目的として活動している。歴史あるライデン大学に日本の美術家を派遣し、日本美術の理解を促進するために、歴史・理論・実践面から包括的にカバーした講義および実習を行う、国際交流事業(ジャパニーズ・アート・プログラム)を過去6回実施した。本申請のカウンターパートはオランダのライデン大学であり1855年に欧州最古の日本学研究科が創設されており、欧州での日本文化紹介窓口として最適である。ライデンにはシーボルト・コレクションを所蔵する国立民族学博物館があり、一般市民も日頃から日本文化に触れる機会を有しており、開催地としてもライデンは適している。

2012年「ジャパニーズ・アート・セミナー」開催にあたっては、在オランダ日本国大使館の後援、オランダ在中の日本人を主としたネットワークであるシーボルト会、在ロッテルダム日本国名誉総領事館(Rotterdam-Japan Club)による広報支援を得た。日蘭の関係に密接で日本文化を通じての知的交流会議プログラムの主旨に最適な協力団体であり、2013年の開催においても協力を依頼する予定である。

4. 成果の発表、普及方法

従来行って来たジャパニーズ・アート・プログラムにおけるライデン大学と美術文化振興協会の取り組みの一部を社会に公開するために本セミナーを企画した。よって、セミナー参加者には本企画内容は直接還元される。また、セミナーの記録を作成して関連機関へ配布することにより、より広く社会への還元をはかる。

5. 事業実施後の評価に関する計画

セミナー当日に参加者に対してアンケートをとり、これをライデン大学側がまとめる。また、予定参加者数(60名)と実際の参加者数との比較を行う。

ライデン大学日本美術学科の学生からは別途聞き取り調査を行う。これはセミナー後のアート・プログラムの実施中に行う。

派遣者である三井田盛一郎より財団関係者および過去のアート・プログラム実施者が聞き取り調査を行う。

以上の結果に基づき本セミナーの評価をまとめる。